



バドミントン愛知

No.
141

平成30年6月 発行者／愛知県バドミントン協会 編集者／広報委員会

第132回 中日楯争奪平成30年度春季愛知県新人バドミントン大会

4月1、8、15日の3日間にわたって3会場、延べ725名の参加者を得て熱戦が繰り広げられた。最終日は緑スポーツセンターでシングルはベスト16、ダブルスはベスト8が優勝を目指した。

男子シングルス 直里冬衣(豊川高)が若さと粘りのあるプレイで勝利

決勝の相手は堀内将弘(デンソー西尾)。第1ゲーム直里の若さ溢れるスピード、全身がバネのような柔らかい体、左利きから繰り出す配球で21-19先取。第2ゲームは直里のスピードや配球に、堀内が反応できるようになりペースをつかむ。接戦の末、堀内が24-22で対に戻す。ファイナルゲームは直里が食い下がる。バックサイド奥の返せないと思われたショットもギリギリで捉え、ネットすれすれに返した球が堀内のミスを誘う。結果、直里が21-18で勝利。

試合後「自分の武器の1つであるリバースカットで相手を搖さぶったが、途中対応してきたので、リバースカットの前にショットを増やした。朝一番の試合(ベスト8)は相手も強く、スロースターターの自分としては本当に苦しかったが、その試合で勝てたことが優勝につながった」と語った。豊橋ジュニアクラブが出発点。高校生になり、体力ともに充実。今後の活躍を期待したい。



直里冬衣 選手

男子ダブルス 安藤(貴船BC)・諏訪(ブッチャーズ)組がコースを読み切り接戦を制す



(左) 諏訪法男 選手 (右) 安藤友浩 選手 安藤友浩・諏訪法男の最終日は、決勝までの3試合はフルセットまでもつれる白熱した試合であった。

決勝の相手は、須田和・小川新太(Oh My Gut)。1ゲーム目は、途中まで点の取り合いのシーソーゲームであったが、残り数点のところで須田・小川組のミスが頻発し21-18で勝利。2ゲーム目は、長い手足を生かした須田の高い打点のカットや、早いタッチのドライブが冴えだして14-21で敗れる。ファイナルゲームの安藤・諏訪組は、コースの先読みが鋭くなり、先に先に攻め21-12であっさり勝利した。

安藤・諏訪組は、三重県出身。安藤が先輩の諏訪を誘って出場した。試合後のインタビューで「ラリー途中でパターンが見える場面が時々あり、コースを読んでプレイした結果、点が取れるようになった。優勝できてよかった」と、笑顔であった。

女子シングルス 尾形珠季(日進西中)が全試合ストレート勝ち

ベスト8はすべて中学生が勝ち上がった。まさにヤングパワー対決。中学生は日頃からタフな練習をしていることもあって、守備範囲が広く、フットワークも綺麗である。他のベスト8やベスト4の試合では、ファイナルゲームにもつれる試合もあったが、尾形は1ゲームも落とすことなく、すべてストレートで勝利した。

「日進ジュニア時代からコツコツ練習してきた。練習量と陸上で鍛えた脚力の強さで優勝できたと思う」とのこと。この春で新2年生。まだまだ伸びる。楽しみだ。



尾形珠季 選手

女子ダブルス コンビネーションで鴨志田礼香・永森直美組(SMAGAN)が圧勝



(左) 鴨志田礼香 選手 (右) 永森直美 選手

決勝の相手は、深見莉和菜(dragonfly)・沖野南美(岩崎中)との対戦となった。ともに、準決勝で延長ゲームまで持ち込まれた大接戦を制して立ち上がってきた。

決勝は、鴨志田のスマッシュが冴え、永森のネット際のショットで点を取るスタイルが確立したこともあり、あっさり勝利した。

「準決勝の伊藤・尾形の若い中学生ペアとの戦いがきつかった」と言う鴨志田は、埼玉県出身。永森とのペアで、更なる奮闘を期待したい。

(広報委員 森田英樹)



愛知県バドミントン協会総会開催

平成29年度愛知県バドミントン協会年次総会が、平成30年3月25日(日)愛知県スポーツ会館において125名の出席のもと開催された。

総会開始に先立ち、特別功労賞4名、功労賞4名、技能功労賞9名と1団体の表彰があり、また、賛助会奨励賞が6名に対して渡された。総会は、事業報告に続き、各専門委員会、各加盟団体の報告があり、協議事項では、協会事業計画および専門委員会の事業計画が提案され、決算・予算案共に承認された。

来年2月に創立70周年を迎える今年度は、記念大会、記念祝賀会等の事業を計画し、盛り上がりのある年度にしたい。



末岡会長挨拶

平成29年度愛知県バドミントン協会表彰

■特別功労賞

武藤 要介 (愛知県社会人クラブバドミントン連盟 副理事長)
毛利 光一 (愛知県社会人クラブバドミントン連盟 理事)
平岩 文雄 (安城市バドミントン協会 副会長)
米本 訓和 (岡崎バドミントン協会 常務理事)

■功労賞

渡辺 洋子 (岡崎バドミントン協会 常務理事)
工藤 正純 (岡崎バドミントン協会 常務理事)
鈴木 晴美 (岡崎バドミントン協会 理事)
武村 順一 (稻沢市バドミントン協会 理事)

■技能功労賞

間瀬 さやか (第34回全日本シニア選手権大会 30歳以上女子単 優勝)
加藤 千里 (第34回全日本シニア選手権大会 40歳以上混合複 優勝)
磯貝謙太郎 (第34回全日本シニア選手権大会 40歳以上混合複 優勝)
山西智佳子 (第34回全日本シニア選手権大会 55歳以上混合複 優勝)
青山 伸幸 (第34回全日本シニア選手権大会 65歳以上男子単・複 優勝)

道家 幸 (第34回全日本シニア選手権大会 75歳以上女子複 優勝)
JTEKT (日本リーグ2017優勝)
山本 優愛 (第26回全国小学生選手権大会 女子単4年生以下 優勝)
伊藤菜央加 (第26回全国小学生選手権大会 女子複4年生以下 優勝)
岡本 芽 (第26回全国小学生選手権大会 女子複4年生以下 優勝)

■賛助会奨励賞

山本 優愛 (第26回全国小学生選手権大会 女子単4年生以下 優勝)
伊藤菜央加 (第26回全国小学生選手権大会 女子複4年生以下 優勝)
岡本 芽 (第26回全国小学生選手権大会 女子複4年生以下 優勝)

長東 翔太 (第26回全国小学生選手権大会 男子単4年生以下 準優勝)
寺西 怜生 (第26回全国小学生選手権大会 男子複4年生以下 第3位)
森下 虎愛 (第26回全国小学生選手権大会 男子複4年生以下 第3位)

平成30年度愛知県バドミントン事業計画

- 1.オール愛知の精神のもと、世代間を超えた強化策を図り、国民体育大会での入賞と第1種大会でのメダルの獲得を目指す。
- 2.平成32年度に愛知県で開催される全日本ジュニアバドミントン選手権大会、全国中学校バドミントン大会を見据えたジュニア選手強化を推進するとともに、地域ジュニア指導者の養成、拡大を図る。
- 3.会員登録の拡大、特に、中小学校体育連盟ならびに小学生連盟と連携し、中学生、小学生の登録者数の拡大を図る。
- 4.加盟市町村連盟・協会会議の充実と加盟拡大を図る。
- 5.本会創立70周年記念事業を実施する。
- 6.第35回全日本シニアバドミントン選手権大会を本会創立70周年記念大会と位置づけ、円滑に開催する。
- 7.バドミントンS/Jリーグ2018刈谷大会を円滑に開催する。
- 8.第57回全日本教職員バドミントン選手権大会の円滑な開催を推進する。

特集

明日へ駆ける

夏休みに開催される全国大会の愛知県予選会が、各連盟で行われている。今号は、晴れの舞台への切符を手にした選手たちの、厳しい試合の戦いぶりと、その先の大きな夢に注目!

若葉カップ

男子優勝 はりーあっぷジュニア

若葉カップ愛知県予選は、昨年に続き優勝。本大会を決めた。昨年は6年生無しの戦力で奇跡的に勝ち抜き、今年は主力が残ったチーム力に死角なし!…のはずだったが、蓋を開ければ、新戦力を有したチームの台頭と、主軸の体調不良で雲行きが怪しくなった。しかし、6年複と4年単、5年単が勝ち点を重ね、今年も優勝!!! よく頑張りました。さあ、本大会は万全で挑みましょう。

(はりーあっぷジュニア 中口直人)



女子優勝 師勝ジュニア

全国若葉カップ3年連続出場! 女子の3年連続は師勝ジュニアが初です。とてもうれしい優勝です!

6年生は、古館菜々美選手ひとりでしたが、6年シングルスをきつちり取ってチームを引っ張りました。また、3年連続で出場している5年生の伊藤菜央加選手、岡本芽選手の力強い活躍は、決勝戦の強豪チームとの対戦で実力を発揮しました。

そして、今年の新ヒロインは、3年生ながら4年シングルスを全て勝利した古館美空選手です。小さな体で淡々と、丁寧に、時には鋭いショットを繰り出し、泣きそうになりながらも、必死に頑張りました。何より10人の選手が全員出場でき、この緊張感を体験できたことは、とても大きな収穫です。先輩たちが残してくれた第1シード枠に対しても感謝です。今年こそ全国大会でメダルが取れるよう頑張ります!

(師勝ジュニア 葛城祥江)



全国小学生ABC大会愛知県予選大会

第19回ダイハツ全国小学生ABC大会愛知県予選大会が、平成30年5月26日、常滑市体育館で行われた。本大会はシングルス個人戦のみで、各クラス優勝者が、8月10日~12日、熊本県八代市で開催される全国大会に出場する。結果は右記の通り。



		優勝	準優勝
Aクラス (5,6年)	男	彦田 禅二(西尾ジュニア)	馬場 快成(はりーあっぷジュニア)
	女	古館菜々美(師勝ジュニア)	岡本 芽(師勝ジュニア)
Bクラス (3,4年)	男	山脇 弘撰(はりーあっぷジュニア)	石川 隼(はりーあっぷジュニア)
	女	松本 紗季(はりーあっぷジュニア)	縣 明日香(はりーあっぷジュニア)
Cクラス (1,2年)	男	彦田 煌(西尾ジュニア)	坂本 羽流(犬山ドリームスポーツ少年団)
	女	本橋 歩奈(アドバンスジュニア)	渡邊 佳蓮(アドバンスジュニア)

(広報委員 鈴木由紀江)

県中学生大会

4月28、29日に大府市民体育館で愛知県中学生バドミントン大会が開催されました。本大会は新年度初の大会で、まだ4月なのに夏のような熱気につつまれ、1回戦から白熱した試合が繰り広げられました。最上級生として結果を出そと気合十分な3年生に、先輩に勝とうとギラギラした目でがむしゃらにシャトルに飛びつく下級生。それぞれの熱い想いがプレーから強く伝わってきました。

ダブルスの注目は、秋の新人戦と同じ対戦となった女子決勝。杉原・伊藤(日進東)にとってはリベンジの機会となりましたがミスが目立ち、成清・河辺(市郷)に0対2で敗れて準優勝。再リベンジは夏の総体へ持ち越しとなりました。

男子ダブルスの優勝は阿保・上田(市郷)。準決勝では2年生ペアの富田・永森(市郷)が3年生の青山・大羽(市郷)に勝利し、準優勝となりました。

シングルスの決勝は阿保(市郷)対富田(市郷)。ファイナルゲームにもつれ込む激戦となりましたが、阿保が3年生としてのプライドを守って優勝しました。

女子シングルスの優勝は久湊(桜田)。まさに絶対王者としての落ち着きのある、危なげない試合運びでした。

今大会を通じて、選手一人一人新たな課題も見つけられました。その課題に積極的に取り組み、より成長して夏の総体を迎えることを期待します。
(広報委員 石井久伸)

高校総体県予選

総体予選愛知県大会が5月19日(東海市民体育館)、20日(守山SC)、26日(北SC)に開催された。

団体決勝は、男女ともに名経大市郷vs岡崎城西。男子は、1複の西塚・苅田(市)vs梅田・國分(城)が2-1、2複の中林・青山(市)vs鳥居・岡部(城)が2-0、1単の辻(市)vs生田(城)が2-0と市郷が3-0で優勝。

女子は、1複の岩野・中山(市)vs山本鈴・山本琴(城)の1年生対決は0-2で城西、2複の酒井・佐藤(市)vs片山・加藤(城)は、2-1で市郷、1単の舟橋(市)vs縣(城)の2年生対決は2-0で市郷、2単の酒井(市)vs池田(城)は2-0で市郷がとり、3-1で市郷が優勝。(3単の池上(市)vs山本鈴(城)も並行され、池上がマッチを迎えたとき打切。)

試合後、主将の中林と酒井は、「男女で全国ベスト4を目指します」と優勝の喜びを隠せない表情で話した。(3位は男子:愛工大名電、女子:星城)

個人戦男子複優勝は新人戦王者の中林・青山。2決は最後まで纏め、21-18、17-21、22-20で梅田・國分が辻・船川に勝利。3年生同士の熱い戦いが見られた。単はベスト8を市郷が占める輝かしい結果だった。(優勝:青山、準優勝:西塚)



女子複も優勝は新人戦王者の酒井・佐藤、2決は中山・池田がそれぞれストレートで勝利。単決勝は団体と同様の縣vs舟橋の2年生対決を21-13、19-21、21-11で縣が勝ち、団体での雪辱を果たした。2決では、同校先輩vs後輩の対戦を3年生酒井が勝利している。

どの学校も3年生の引退をかけ、会場の気温が上がる程の白熱する対戦、応援がみられた。特に女子は1年生が健闘し、今後の活躍が楽しみだ。本大会団体戦上位3校が東海大会(6月・岡崎)に、個人戦2名(組)が総体(8月・静岡)に出場する。愛知県勢の活躍を期待したい。
(広報委員 上出美佳)

西三河のバドミントン専門店

モリモリ

豊田市山之手3丁目100番地
☎ <0565> 29-0055

勝つための本物

GOSEN®

www.gosen.jp

株式会社ゴーセン 大阪本社/TEL.06-7175-7115 FAX.06-6538-8238

理事長通信

愛知県バドミントン協会
理事長 山田 順一郎



平成30年度がスタートし、すでに四半期が過ぎようとしている今日この頃ですが、皆様におかれましてはそれぞれの立場でバドミントン活動に励んでおられることと思います。

日本のバドミントン界は、ユーバー杯の37年ぶりの優勝、トマス杯の準優勝と本年度も華々しいスタートを切り、東京オリンピックでの活躍が大いに期待されるところです。

愛知県バドミントン協会もジュニアナショナルU16に久湊菜々選手が、同U13には長東翔太選手、山本優愛選手、伊藤菜央可選手、山脇弘獎選手の5名が選考合宿を経て、本年度の日本バドミントン協会ナショナル選手として代表入りを果たしました。これを弾みに、本県全体の競技力のボトムアップを願って止みません。

普及面においては、本年度も多くの本県主催の県内大会やバドミントン教室を開催いたします。

さらに、日本バドミントン協会第1種大会である全日本教職員大会(8月)、全日本シニア大会(11月)、S/Jリーグ2018(12月)の3大会の開催も予定されております。観戦して、参加して、バドミントンを大いに楽しんでください。

最後になりましたが、指導、普及、強化の三本柱を礎に、実りある協会運営を進めていく、平成30年度の本会に御協力をよろしくお願ひいたします。

第15回 愛知県シニアバドミントン交流大会 – 平成30年4月28日 稲沢市総合体育館 –

本大会はシニアのバドミントン爱好者が気軽に参加し、試合を通じて交流をはかる目的で、県協会傘下市町村連盟が運営主体となり、持ち回りで実施している。今回は稲沢市バドミントン協会が担当。今年から春先に実施することとなり、前回大会から3か月しか経っていない中、70組140名を迎えて実施した。

中瀬弘司稲沢市バドミントン協会会長の歓迎挨拶で始まる。顔見知りがいれば気軽に言葉を交わし、和気あいあいと、しかし、一旦プレーに入ると凛とした緊張感が伝わって来る交流会ならではの大会となっている。

優勝者の中には前回と異なる種目で連続優勝した人、別々の種目で夫々優勝した夫妻、大学の同窓で24年ぶりに組んだペア、同好会であった時から組んでいる岡崎城西高1期生ペア、異なるチームで活動しているが練習場所が縁で生まれたペアなども。バドミントン好きが様々な出会いを通じてここに集合し、世代・地域を跨いでバドミントンの世界が広がっていました。優勝者は右記の通り。

(広報委員長 岩田 崇)

	男子複	女子複	混合複
40歳	生田 純也(振甫クラブ) 柳田 順一(ATOM)	篠原 里美(岩倉パラレル) 鈴木 須光代(Mille-Feuille)	篠原 彰(不老クラブ) 田中 江理子(Tsutsumi)
50歳	船木 勝正(大門クラブ) 成瀬 達吉(大門クラブ)	佐野 里美(ブッチャーズ) 原田 志保(名古屋わかしゃち)	廣田 一(Mille-Feuille) 野々山 千恵子(三好BC)
60歳	佐野 章(ブッチャーズ) 大河内 潔	矢間 芳子(岡崎フェニックス) 西川 福美	齋藤 敏和(横須賀クラブ) 三ツ石 るみ子

大府

JR 大府駅西口徒歩 8 分

はりーあっぷ

代表 中口直人

TEL(0562)44-5529 FAX(0562)44-5594

バドミントンプロショップ
リーダース グループ

SINCE1979

名古屋一社

地下鉄一社南出口より徒歩 2 分

(有)リーダース

代表取締役 菊田修光

TEL・FAX(052)703-2767

愛知のホープ

ふなはし かなほ
舟橋奏帆(名古屋経済大学市邨高等学校)



名古屋経済大学市邨高等学校に通う2年生「舟橋奏帆」選手を紹介します。

小学校2年生の時に春日井市のウイスター・アジュニアでバドミントンを始め、めきめきと頭角を現し、中学校から市邨に進学し、努力を重ね、成長を続けてきました。誰もが認める真面目な性格で、どんな練習も手を抜くことなく集中して取り組みます。練習がない時には家族で体育館をとって地道にネット前の練習を繰り返すなど、高い向上心を持っています。学校生活においても誰よりもまじめに授業に取り組み、優秀な学業成績を収め、まさに文武両道です。

試合ではサウスポーから繰り出される強烈なスマッシュを軸に攻撃的なゲームを開催します。そのスマッシュを武器に、昨年度秋に行われた愛知県新人戦シングルスにおいて、1年生ながらも優勝し、それに続き愛媛県で開催された全国選抜大会ではベスト16という好成績を残しました。得意のスマッシュは、その大会で優勝を果たした福島県の水井ひらり選手が、ショートサービスに切り替えて対応してくるほどの威力で、対戦相手にとってかなりの脅威となるようです。

また、5月に行われた総体の愛知県予選では、個人戦こそ同じ学年のライバルである岡崎城西高校の県選手や、同じ学校の先輩である酒井選手らに惜しくも敗れ全国への出場権を逃したものの、学校対抗戦では全ての試合に勝利を収め、優勝の原動力になりました。

現在は夏に行われる三重インターハイに向け、スマッシュをより生かすためディフェンス面の強化を課題とし、日々厳しい練習に励んでいます。

まだまだ心身ともに未熟な選手ですが、応援宜しくお願い致します。

(名古屋経済大学市邨高等学校 バドミントン部顧問 稲垣翔悟)

フットワーク

此の欄は、連載物のコーナーとして県内各チームの紹介やその他の記事を皆さんに続けてお届けするコーナーです。

今回は **名古屋経済大学市邨中学校バドミントン部** を紹介します。

名古屋経済大学市邨中学校バドミントン部は、「心技一体」を部旗に掲げ、男子12人、女子9人の部員が、全国大会上位入賞を目指し毎日の練習に一生懸命取り組んでいます。

普段は常に本校の高校生と一緒に練習をしています。自分達よりもスピード・パワー・技術など、全てにおいてハイレベルな練習をいつも目の当たりにすることで、とても良い刺激を受ける練習環境となっています。高校生を含めると部員も多く、コート内の練習は、交代で行うこともしばしば。コート外の練習時にはランニングや筋トレを中心とした身体づくりのメニューをこなしています。成長期であるこの時期のトレーニングはとても重要であることを生徒自身が自覚し、与えられたメニュー以上のこと取り組んでいる姿には、強くなりたいという意識の高さを感じます。



市邨中学校バドミントン部はここ数年、毎年のように全国大会に出場しています。今年度も出場を目指していますが、東海地区には強力なチーム、選手が多くあります。先日行われた石川オープンでは、男子団体3位、大府オープンでは、男子団体優勝という好成績を残すことができましたが、油断は禁物。もっと貪欲に上を目指そうという気持ちを持って課題に取り組むことが、全国大会出場の鍵になると思っています。

これから夏に向けて、男子代表の阿保、女子代表の熊谷が仲間や後輩を引っ張り、チーム一丸となって練習に取り組み、団体戦・個人戦ともに地区予選から良い形で試合に入れるよう準備をしています。そして、誰からも応援してもらえるチームになるよう努力を続けていきます。応援よろしくお願ひします。

(名古屋経済大学市邨中学校バドミントン部顧問 石井久伸)

連盟NEWS

実業団バドミントン連盟

◆第62回東海実業団バドミントン選手権大会

開催日：平成30年4月8日

開催場所：刈谷市体育館

参加チーム：14チーム

成績：
優勝 ジエイテクト（愛知）
準優勝 丸杉（岐阜）
3位 大同特殊鋼（愛知）
3位 東海興業（愛知）

東海地区4県のトップチームによる団体戦（2複3単）の東海実業団大会が、刈谷市で開催され、今年度S/Jリーグに参戦する「ジエイテクト」が決勝で岐阜の強豪「丸杉」を大接戦の末下し、2連覇を果たした。

決勝戦はダブルスの力が安定している「丸杉」が2つとも制し先行したものの、「ジエイテクト」はシングルスを3つ（和田、松村、野中）取り返し、見事逆転勝利を収めた。

特に、最終第3シングルスに登場した伸び盛りの野中隆太郎選手が、息詰まるラリー戦を我慢強く耐えて勝利したのが印象的であった。（井上龍）

中小学校体育連盟バドミントン部

◆中体連の活動状況

3月に奈良県で行われた全日本中学生バドミントン大会では、残念ながら予選敗退となってしまいました。その結果を踏まえて、夏の全国中学校総体に向けて、中体連と強化委員会が連携し、強化事業を行っています。

トヨタ自動車や東海興業などの協力により、主に4月の県大会でシングルス・ダブルスそれぞれ上位に入賞した選手を対象に行った実業団トップクラスの選手との合同練習は、中学生にとってとても良い経験となっています。

今後もこの活動を継続し、全国で活躍できる選手を育てるサポートをしていきたいと考えています。

（石井久伸）

テニス・バドミントン専門店

ラケット
ショップ

NONAKA

名古屋市千種区内山町3丁目28番2号
TEL <052> 741-3537

学生バドミントン連盟

◆東海学生選手権大会

平成30年4月9日（月）から4月12日（木）にかけて、名古屋市守山スポーツセンターにて、第66回東海学生バドミントン選手権大会が開催されました。

男子シングルスでは去年準優勝で惜しくも優勝を逃した竹岡房樹選手（愛知淑徳大学）が、総勢253名の中勝ち上がり、見事優勝しました。トーナメントを通じて接戦が多かった竹岡選手は、試合後「第1シードという枠は気にせず、自分が練習で培ってきたプレーを出すだけだと意識した。前半の出だしが悪くても難しく考えずに、あえて狙わないコースをついたり、ミスを恐れない行動が勝因。」と語りました。インカレの出場選手を決める9月の西日本大会に向けてより一層練習に励み、東海地区から多くの選手のインカレ出場を期待します。（長谷川昂平）

市町村だより

稻沢市バドミントン協会

桃田選手（アジア選手権優勝）や山口選手（世界ランク1位）、高松コンビ（オリンピック優勝）等日本のトップクラス選手の活躍で、小中学生のバドミントン人口が増加しています。

当市でも、スポーツ少年団が2団体設立され、県バドミントン協会小中学生連盟に加盟している団体も見られるようになりました。そのため、市バドミントン協会の総会において、小中学生のサポートに力を入れることを活動方針にあげ、具体的な方策の検討にのりだしています。まずは、支援対象の団体の明示と支援内容が議題です。他市町村の状況も参考によりよい支援を目指します。

知多市体育協会バドミントン連盟

平成30年3月4日（日）知多市民体育館にて、第86回知多市民バドミントン大会を行いました。

種目	優勝	準優勝
男子 ダブルス	貝原 健太郎 森田 貴士（アイシン）	神之田 星斗 藤原 瑞巳（つつじ）
	齋藤 敏和 上村 幸司（横須賀フ）	斎藤 清正 庄司 雄樹（マスカット）
	中嶋 章敏 村上 勝隆（アイシン）	坂上 覚 竹内 宏雄（つつじ）
	星野 潤一 竹内 利幸（市役所）	金澤 秀昭 岩田 恒夫（つつじ）
女子 ダブルス	國田 佳子 野村 友美（アイシン）	斎木 香穂 座間 味星乃（つつじ）
	坂 敏美 川村 由里子（ドリブン）	斎藤 敏恵 三ツ石るみ子（横須賀フ）
	浅沼 久美子 井上 涼子（つつじ）	白沢 純子 深川 みゆき（旭桃st）
	山本 有桜（知多Jr）	山内 めい（知多Jr）
小学生部卒業大会		

豊田市バドミントン協会

◆第30回豊田オープン大会

開催日：平成30年2月18日
場所：スカイホール豊田（メインホール）
男子 47チーム 94人、女子 25チーム 50人
混合 16チーム 32人
優勝者は次の通り。

一般男子	津幡・城川（アイシンAW//ハリーアップ）
一般女子	真田・市川（RHBT/クック愛知）
シニア男子	小林・佐藤（豊田自動織機）
ジュニア男子	近藤・小松（愛産大三河高）
ジュニア女子	浅井・大見（愛産大三河高）
一般混合	脇野・笠原
シニア混合	山田・宮本（川越クラブ）

一宮バドミントン協会

◆一宮春季市民大会

3月25日（日）一宮市総合体育館（DIADORAアリーナ）にて開催されました。年に一度の混合ダブルスの大会です。参加者107ペア。夫婦、親子、姉弟、同じ高校の生徒ペアといった、普段の試合では組む機会の少ないペアでの試合で、市民大会ならではの和気あいあいとした雰囲気でした。

◆第19回一宮尾西レディースバドミントン大会

3月5日（月）一宮市総合体育館（いちい信金アリーナB）にて開催されました。参加者121ペア。1部優勝の岩田・丹下ペアは昨年に引き続き連覇となりました。

	優勝		準優勝		
1部	岩田 丹下	恭子 美樹	一宮	長瀬 水野	ゆか 葉子
2部	井上 平松	洋子 恵美	一宮	伊藤 水野	愛子 純子
3部	今枝 鈴木	理恵 春江	一宮	山田 伊藤	由美子 佐知子
4部	伊藤 渡辺	昌子 俊子	日進	江口 足立	朋己 友紀
5部	足立 飯沼	琴音 万美子	大口	極殿 上田	順子 広江
					名古屋

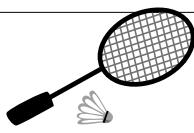


お知らせ

「選手強化委員会の活動報告」と「レディース連盟の県個人戦結果報告」が、県協会HPに掲載されています。併せてご覧ください。

審判連載

今回のテーマは
「団体戦について」です。



水野 慶介

先日、2年に一度行われる世界国別対抗戦トマス・ユーバー杯が行われ、女子は優勝、男子は準優勝という結果でした。

今回は、団体戦に関するルールです。団体戦では個人戦とはマッチを始める際のコールが異なります。普段はあまり使わない用語があるので、練習しましょう。（詳しくは競技規則の審判用語に記載があります。）

また、団体戦開始後プレーヤーの責任でない状況が発生した場合、最終的な判断はレフェリーが行いますが、残りの登録プレーヤーで試合が可能な場合は、続行が認められています。（詳しくは競技規則第4章第20条を参照して下さい。）

編集後記



毎回、巻頭ページを飾る記事（県協会主催大会）に添えて、迫力あるプレイの写真が載っているでしょう。HPには、優勝カップや賞状を手に、晴れがましい笑顔がいっぱいですね。

撮り手は「千葉弘彦さん」です。

（写真担当 推薦広報委員）

大会最終日の試合会場で、コート脇などプレイ中の選手たちの直ぐ近くで、自慢のカメラを構えている、あの「優し気なおじさん（笑）」です。

今号も、優勝選手たちの「躍動感溢れる一瞬」を切り取ってお届けします。（広報委員 山本真弓）

連絡 投稿

〒452-0008 清須市西枇杷島町地領1-9-9
広報委員長 岩田 崇
TEL (052) 501-2602

愛知県バドミントン協会のホームページアドレス
<http://www.badminton-aichi.com/>
Eメールアドレス
info@badminton-aichi.com

スポーツごころを世界に。

